



インスピレーションになろう

新湊ロータリークラブ週報



例会 毎週金曜日 12:30～13:30
会長 伊藤 雪枝 幹事 牛塚 松男

第 2276 回例会 2019 年 2 月 22 日(金)

「富山第三分区 IM に備えて」

◆点 鐘 伊藤雪枝会長

◆ソング 「我等の生業」

出席報告<会員数:44 名>

出席者	出席率	修正出席率
32 名	75.56%	84.02%

◆幹事報告

- ・3月の予定表配布
- ・郡上八幡RCよりお土産頂く。
- ・IM 登録料 8,000 円の内、自己負担金 5,000 円とします。
- ・次回例会は「IM」開催。13時中文小ホール前集合です。



ニコニコ BOX 報告

伊藤会長 IMの日が近づいています。会員の皆様の協力をお願いします。是非成功させましょう！

穴田 米田実行委員長、本日の卓話宜しくお願いします。

赤江 越後雅俊さん、入会おめでとうございます。皆と良く、活躍して下さい。

京谷 在籍祝(11年)を頂いて。

ニコ BOX 累計額 ￥812,500

クラブフォーラム「IM に備えて」

まず穴田ガバナー補佐より挨拶があり、続いて米田 IM 実行委員長より概要説明。各部会長より各々の役割分担と準備の進捗状況の報告がありました。27 日(水)には会場でのリハーサルを行う予定。

IM(Intercity Meeting)とは

複数の都市のクラブで実施する都市連合会のこと。

ロータリーの特徴と計画を検討するもの。その目的の第一は会員相互の親睦と面識を広め、会員にロータリー情報を伝えることにある。

皆さんの力で IM を成功させましょう!!

第 2277 例会 2019 年 3 月 2 日(土)

「富山第三分区 IM」開催

◆点 鐘 富山第三分区ガバナー補佐 穴田 茂

3月2日(土)射水市高周波文化ホールにおいて国際ロータリー第2610地区富山第三分区IMが高周波文化ホールで開催され、220名の登録があり、若林ガバナー、津田、永田両バスターガバナーはじめ7クラブのロータリアンが一堂に会しました。

講師に元内閣府特命担当大臣の石破茂氏をお招きし「ふるさと創生～ロータリーに何ができるのか」のテーマで基調講演をいただきました。そのあと「わがクラブの地方創生の取り組み」と題し、それぞれのクラブより熱のこもった発表がありました。懇親会は射水商工会議所がまちおこし事業の一環として取り組んでいる「食彩しんみなと」とコラボし、地元の料理店・鮎店に移動。IMの目的の一つでもある会員相互の親睦を深めるという訳にはいきませんでした。衰退を続ける地域の活性化に少しでも貢献したいという思いで企画。新湊の味覚やサクラマス料理を楽しんでいただきました。



「外部卓話」

- ◆点 鐘 伊藤雪枝会長
- ◆ソング 「君が代」「それでこそロータリー」
- ◆ゲスト紹介 (株)フォー・シーズン・ズ
代表取締役会長 近江 清氏
- ◆米本会員より会葬御礼
- ◆結婚記念祝 田中・境
- ◆誕生祝 牛塚・田中・越後嘉・篠島・津幡俊

出席報告<会員数:44 名>

出席者	出席率	修正出席率
28 名	75.00%	82.22%



ニコニコBOX 報告

- 穴田ガバナー補佐 先週末の I M 開催にあたり米田実行委員長はじめ会員の皆様には大変お世話になり成功裏に終了する事ができました。心より感謝致します
- 伊藤会長 I M が無事終わり、ありがとうございました。砺波 RC 近江様、卓話宜しくお願いします。
- 牧田・京谷 近江さん、今日は宜しくお願いします。
- 米本 母の葬儀に際しお世話になり有難うございました。
- 牛塚 I M お疲れさまでした。穴田ガバナー補佐の顔も立ったことと思います。誕生祝を頂いて。
- 米田 I M 皆様の協力を頂き無事終える事ができました。
- 三箇 I M 懇親委員会の皆さんお疲れ様でした。おかげで来訪されたクラブに喜んでもらえました。都都逸同好会の皆さん盛り上げていただき感謝です
- 中瀬 I M 良かった!穴田ガバナー補佐はじめ会員の皆さんの努力により大変素晴らしい I M になりました。
- 篠島 誕生祝いを頂いて。
- 織田 都市連合会の大盛況で良かったですね。
- 金田安 3/5 のゴルフコンペに参加された方々有難うございます。次回は I M 慰労コンペをしましょう。
- 田中 結婚記念祝と誕生祝を頂いて。
- 津幡俊 昨日 56 歳になりました。今年はチャレンジの一年にしたいと思っています。
- 境 結婚記念祝を頂いて。

ニコ BOX 累計額 ¥877,500

卓話「日本大学アメリカンフットボール部の危険タックル事件から学ぶ」 近江 清氏

昨年 5 月 6 日に行われた日本大学と関西学院大学のアメリカンフットボール定期戦で起きた危険タックルを巡る事件から『何を学ぶか』の見地でお話したいと思います。



加害を行った選手による同月 22 日の記者会見、それを受けた 23 日の前監督・コーチによる会見、関東学生アメリカンフットボール連盟の会見以降父母会、OB 会、日大会長、理事長と事態が動いていきました。

私は大学時代東京経済大学アメフト部で 4 年間プレーをしてきました。3 年生時にはローズリーグで全勝優勝、4 年生の時主将を務め関東学生 1 部リーグ(日大と同じリーグ)で全敗。今回の事件の本質はどこにあるのか、経営にも当てはまる事が沢山あるのではないかとこの 2 つの立場・観点から整理し、多角度から考えてみました。

まず連日ワイドショーで放映されたあのタックルは極めて異常なタックルです。スポーツマンシップからは到底考えられない犯罪です。しかし世間は真摯な会見を行った加害選手に同情的である一方前監督の会見における関係者の驚くような対応もあって日大に対して厳しい目線が注がれました。

私には加害選手の会見で唯一核心を突いた質問がありました。質問者は元関学アメフト部 OB 有馬キャスターでした。「あなたにはプレー終了の笛が聞こえましたか?」

数秒たってから「はい。プレーが終わっていることはわかっていました。」との答えでした。すなわち監督が「言ったか、言わなかったか」の事実でなく、あの危険なタックルをしなればいけなかった状況があったという事になります。

マスコミは前監督の会見は虚偽と決めつけましたが、私はほとんど正しい発言(ケガをさせてこいとは言っていない)だと思います。言わずして日大アメフト部の環境が選手を追い込んだのです。私も現役時代日大と戦いましたがそれは激しいものでした。選手が悪いのではなく部全体にある威圧(凄みの快感)であったと思います。戦略は「常勝日大!勝つことがすべて」という風潮が今も続いております。本来のアメリカンフットボールの戦略は自分たちのフットボールを行い勝つことです。それは全選手の人間力向上を前提とした情報分析と決断、高次元の戦術(相手戦術の心理を読む)のことを言い、経営にも当てはまります。

次にトップの責任問題です。日大は関学に対してしばらく謝罪をしませんでした。一般に学生スポーツの反則が日本を揺るがすようなニュースになることはありません。日大としても手を打たずとも解決できるという見通しだったのかもしれませんが。そのあと加害選手とコーチが謝罪に行くが関学に断られるということになりました。悪い事をしていないと高をくくっていたことが尾を引いたといえそうです。

が、「ピンチはチャンスだ!ありがとう」です。再建策はもう進んでおります。アメリカンフットボールには「三つの精神」があります。「格闘の精神」「協調の精神」「犠牲の精神」私は三つ目の「犠牲」という言葉に学生時代心動かされました。チームが得点、勝利をつかむため囂となる選手、ボールを投げやすくする選手がおり(私はほとんどこの役)プレーが成り立っていきます。日大の選手にも必ず誇りがありますので立ち上がってほしいと心から願っています。今この再建プレーの笛が鳴りました。笛が鳴り終わるまで頑張るってほしいものです。「日大の選手主体のニューチーム必ずできる笛が鳴るまで」